

# 第13分科会「里山と残土・産廃」

## シンポジウム 「里山と不法投棄・残土問題」

日時：2006年5月20日（土）10:00～12:00

場所：八千代市八千代市民会館第2会議室

参加者：54名（写真展も沢山の方にみていただきました）

### 趣旨

里山の谷津田にゴミが積まれる。千葉県の実験投棄、日本一と環境省は発表する。近県から船に積まれて千葉県に運ばれてくる残土・産廃が千葉県の里山を様変わりする。

こんな受身の私たちがいいのかと思う。みんなで話し合ひましょう。



### 第1部 講演会 「里山を生かした町づくり 2006」

#### 「平塚地区・運動公園の森モデル事業」

講師： 増木 豊・上西 忠（NPO 法人しろい環境塾）

司会： 足立満智子（成田市議）

ゴミがあるからゴミが捨てられると放置された里山を皆が集まり、資金がなくてもみなさんの労働力が資金なのだ、こつこつとやりだした。まず町を視察し、放置された倒木、谷津田をみてみんなで里山を保全しようと活動を始めた。干伐材の有効利用、炭焼き等、子どもたちの環境教育にもつながると、しかし里山は間伐材が増えるばかり、田圃は国の大規模化の方針から耕作放棄状態が増え、行政の資金援助も1、2年で打ち切られるかも知れない。

しかし、皆はふるさと作りに精を出す、子どもの環境教育、亀が沢山生息する二重川の河川工事で亀の救出作戦を大学の先生の指導のもとに子どもとともに楽しんだり、今後向き合う課題はいろいろあるが、6年目を迎えて一生懸命である。過日の5周年記念には大槻副知事や市長を迎えて、満員の盛況になった。行政と一緒に町づくりでゴミを追放しようと活躍中。

### 第2部 写真展 「変わり行く千葉県の自然」

県下の各地の残土・産廃・不法投棄の有様を紹介し合わせて失われつつある千葉の自然を写真により紹介しました。

右は銚子の今の写真です。高く積み上げたものを下の畑に下ろしていくらか見やすくなったとしても積み上げた産廃から割れ目を通して硫化水素が臭おってきます。ペットボトルの水で生活している人もいる現状です。それでも、した左のジャガイモ畑はみどりに覆われている。だからいいというものではない。人間のすめない場所を作っていく。





## 内容

全国の3分の1が入っているといわれた不法投棄が減ってきているというもつかの間、また残土の山が緑の山に変わってきているその周りに新たな不法投棄が始まっております。気をつけましょう。ゴミは捨てられたらもう終わりです。気づいたら直ぐに町役場に、また警察に通報しましょう。ゴミは捨てられたそのときから何時までも置き去りにされるのです。県民皆一丸になってゴミの追放に立ち上がりましょう。

## 結論

しろい環境塾ももう6年の歴史です。一步一步その気持ちでみんなで町を守っていく。講演会でもどうやらそうなるのか、行政とも一緒になれるのかと質問はみな「このことで苦勞している」と言うことでした。きながにゆっくりと、これは町にとってよいことなのだ、一緒にやろうと皆が気づいてくれたときより町おこしは始まっていくのですといっております

ゴミ問題、不法投棄もそうですが、解決していく第1の課題は市町村に活気をつけるということだと思います。そのようなことからしろい市の町おこしを紹介しました。そして残土、産廃がこのように町の景観を、里山を壊してしまうのだということを写真展では紹介しました。

## まとめ

**活気ある町づくりをしてふるさとをゴミから守りましょう。子どもたちを里山であそばせましょう。自然は私達の“大きなふところ”です。子どもの目はキラキラと輝きます。**